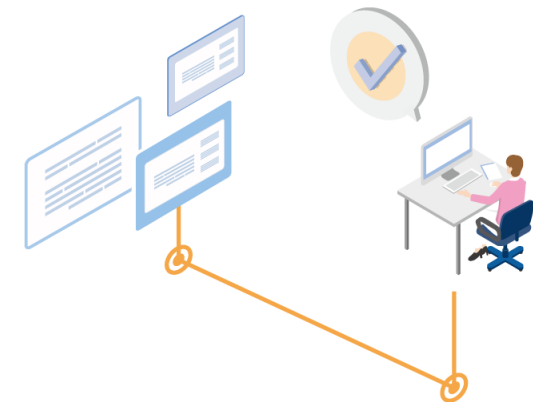


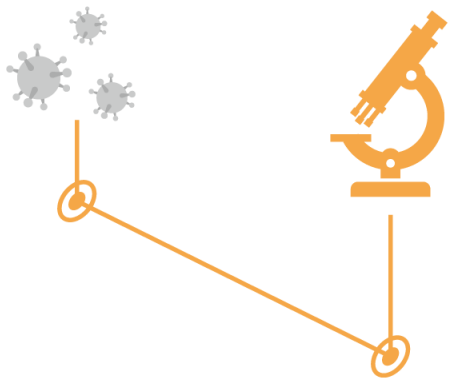
HPV検査単独法による子宮頸がん検診に関する 普及啓発に係る医療機関向けツールの 開発のための研究（宮城班）

研究代表者	宮城 悦子
研究分担者（五十音順）	黒川 哲司 後藤 温 齊藤 英子 佐治 晴哉 鈴木 幸雄 町井 涼子 水島 大一 森定 徹 吉田 穂波



Let's start e-learning

HPV検査の対象者と検診間隔 結果の取扱いについて



対策型検診におけるHPV検査単独法による 子宮頸がん検診について

対象年齢と検診間隔について

1 HPV検査単独法による子宮頸がん検診の対象者は、**30-60歳**の女性

2 HPV検査単独法による子宮頸がん検診の検診間隔は、**5年に1度**

HPV検査単独法による子宮頸がん検診の対象者

対象者

下記①～③の条件をすべて満たす者

- ① 30-60歳の女性
- ② 4年以内にHPV検査による子宮頸がん検診を受診していない者
- ③ 1年以内に細胞診による子宮頸がん検診を受診していない者

除外される者

- 子宮頸部を有さない者（子宮の手術歴があっても子宮頸部を有する場合は対象となる）
- 子宮頸部浸潤がんの治療中または既往のある者
- 子宮頸部の疾患もしくはその疑いで、医療機関で治療中または経過観察中（医師に検査のために受診することを指示されている）の者
- 性交経験が一度もない者

注意が必要な者

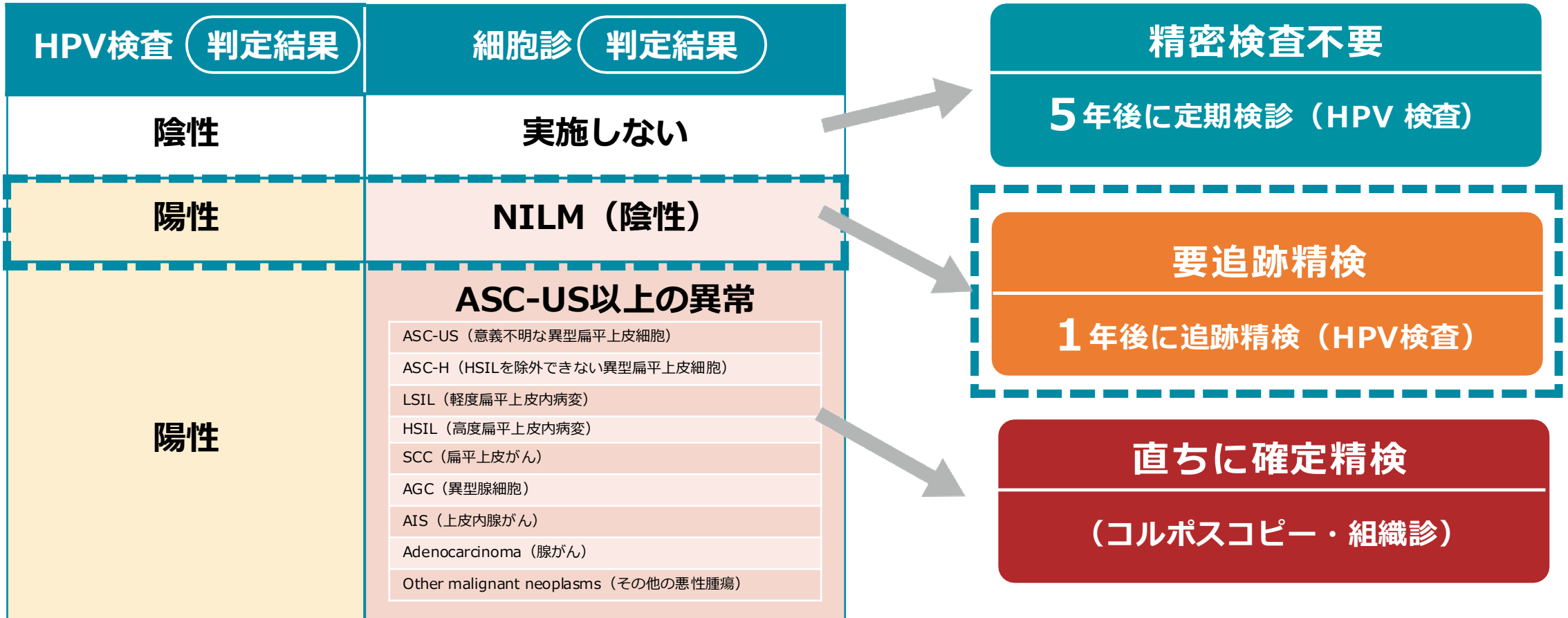
妊娠中の者

妊娠週数によって細胞採取器具が禁忌のものがあるため、適切な採取器具の選択が必要である

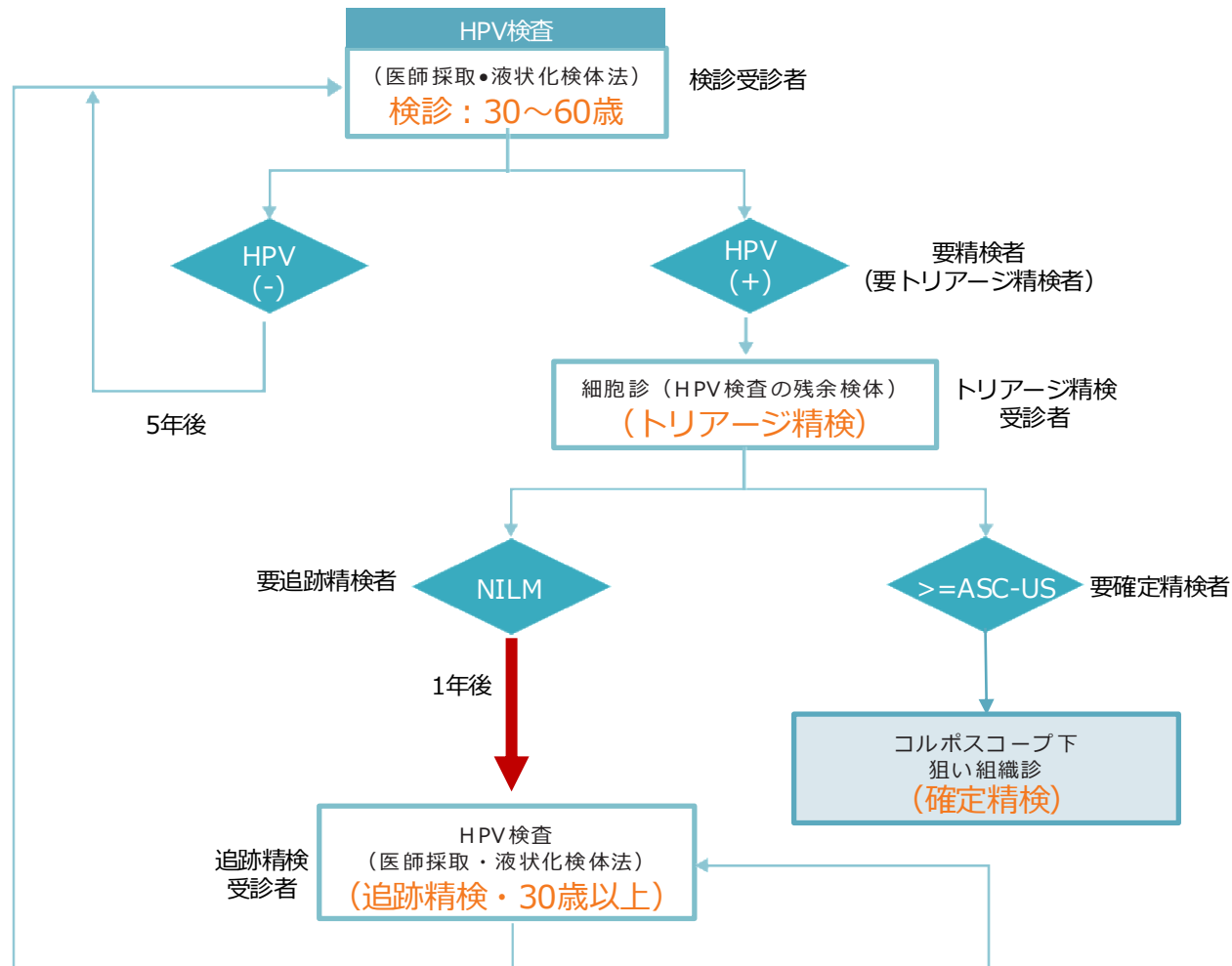


HPV検査陽性かつ細胞診陰性者の取り扱い =

要追跡精検



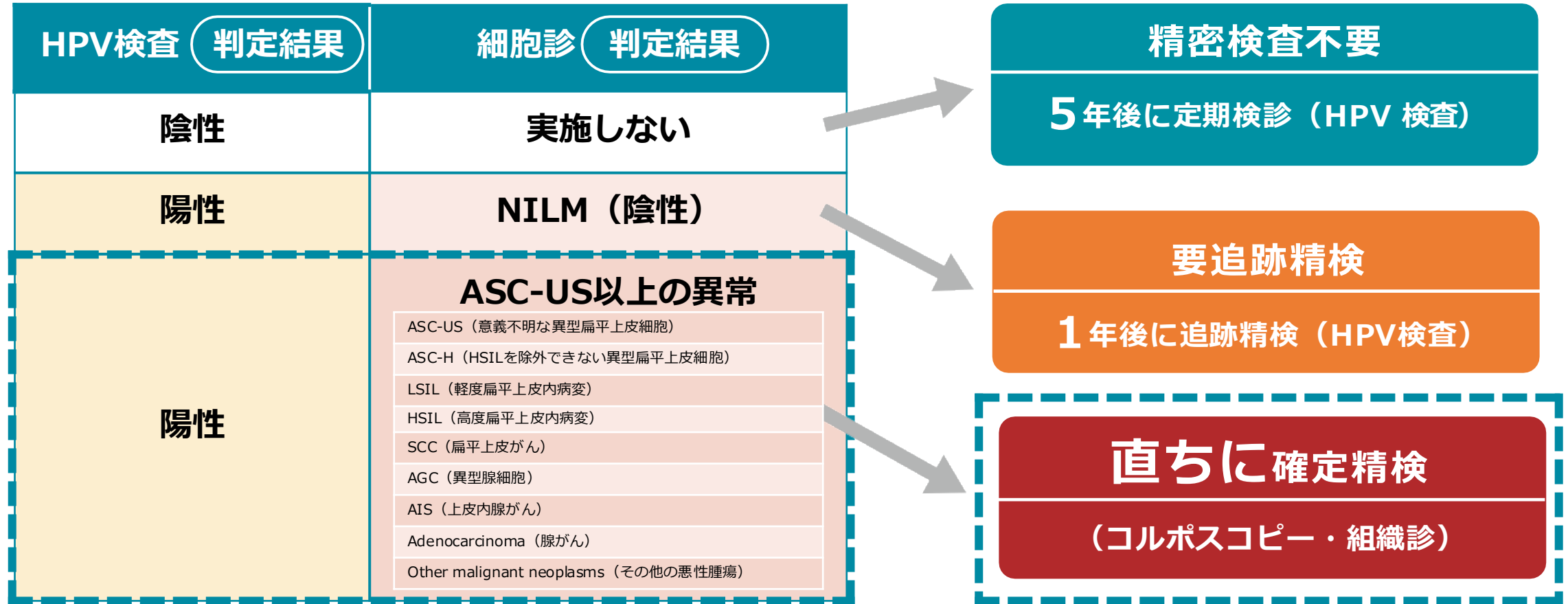
対策型検診におけるHPV検査単独法による子宮頸がん検診について HPV検査陽性かつ細胞診陰性者の取り扱い



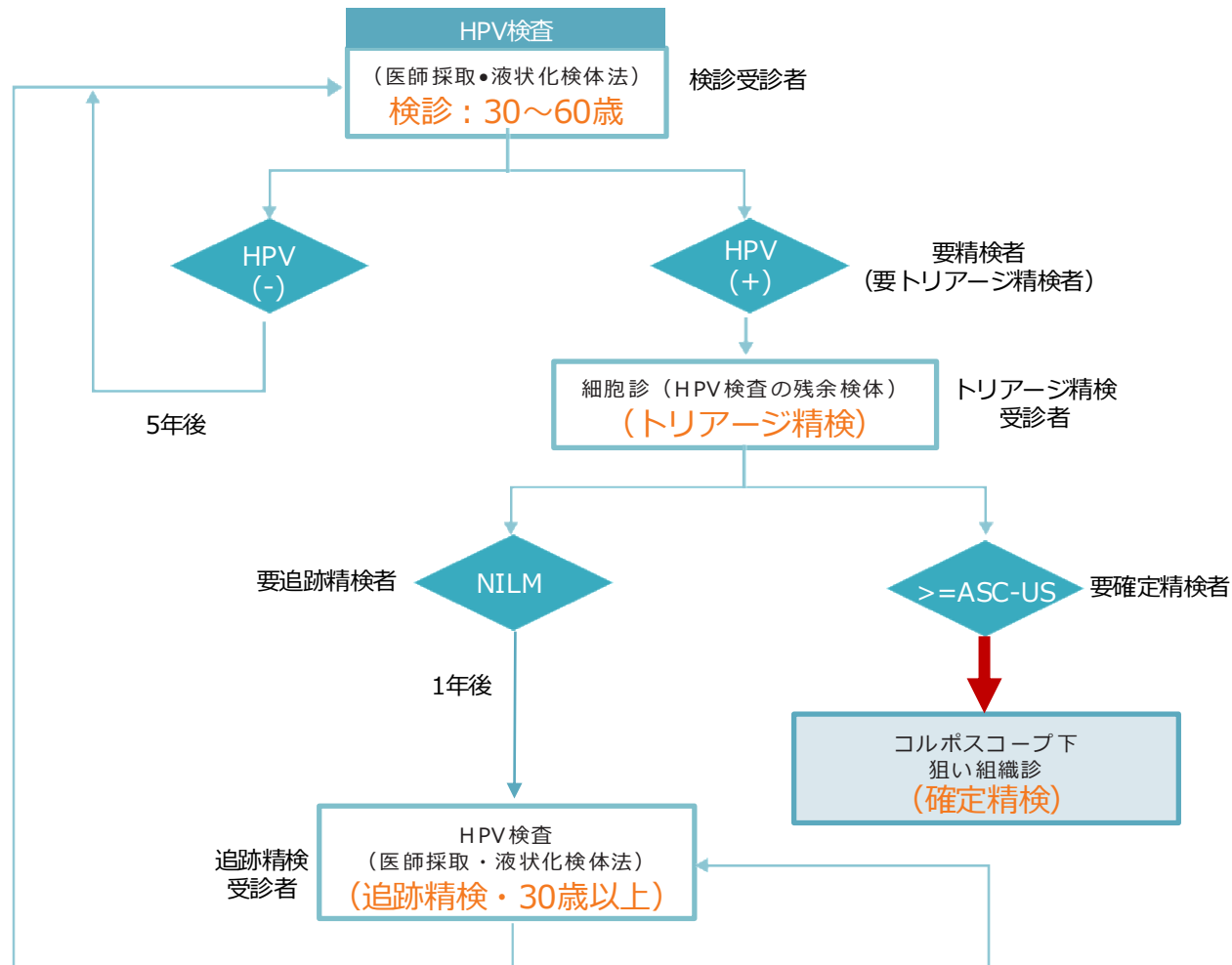
- HPV検査陽性者は、
残余検体でトリアージ精検
(すぐに確定精検に進まない)
- トリアージ精検で
細胞診NILMであれば、
1年後に再度HPV検査を行う
(追跡精検)

HPV検査陽性かつ細胞診陽性者の取り扱い＝

直ちに確定精検



対策型検診におけるHPV検査単独法による子宮頸がん検診について HPV検査陽性かつ細胞診陽性者の取り扱い



- HPV検査陽性者で、残余検体のトリアージ精検でASC-US以上の場合は、**直ちに確定精検**を行う
- 確定精検は、コルポスコープ下狙い組織診によって行う